

平成 29 年度足寄町商工会経営発達支援計画  
(伴走型小規模事業者支援推進事業) 実施に伴う事業評価会議記録

評価機関名 足寄町商工会  
開催日時 平成 30 年 2 月 13 日 (火) 午後 2 時 ~ 午後 4 時 30 分  
開催場所 足寄町商工会館会議室  
出席者 評価委員 足寄町役場経済課 室次長 小松芳幸  
帯広信用金庫足寄支店長 平松央  
北海道商工会連合会十勝支所長 星圭司  
専門家 商業からのまちづくり工房 代表 加藤玲  
(株)アイ・ピー・エス 代表取締役 八田裕二  
取締役 山崎明美 (オブ)  
足寄町商工会 会長 丸山勝由  
副会長 木村昭  
副会長 高橋秀樹  
理事 菅原智美  
事務局 佐々木健一、前崎幸男、大久保基

1 .平成 29 年度経営発達支援事業実施(伴走型小規模事業者支援推進事業実施)  
状況報告について

・(株)アイ・ピー・エス、八田氏より平成 29 年度伴走型小規模事業者支援事業推進事業に関する調査(総合報告書)【資料 1】及び平成 29 年度下期経営動向調査【資料 2】並びに足寄町の観光客アンケート報告書【資料 3】に基づき説明した。

・商業からの街づくり工房代表加藤氏より足寄町の農業観光を考える【資料 4】に基づき説明した。

・事務局前崎指導課長より経営発達支援事業評価シート【資料 5】に基づき説明した

2 .意見交換

|     |  |
|-----|--|
| 加藤氏 | ・人手不足、足寄だけの問題ではなく、全国各地の問題である。1 企業で解消することは難しく、地域全体で考える仕組みづくりが必要である。また、個別の課題として、事業承継するものとしなくても良い企業があ |
|-----|--|

|             |   |
|-------------|---|
|             | <p>るのではないか。むしろどうやって安定的に閉めさすか。維持することも大事だが、一方でソフトランディングさせる方も必要と言えるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光調査で見ると、オンネトーに行った方がすぐ近くの湯の滝を訪れるのが 1/4 になっている。回遊していない実態が浮き彫りになっており、地域の利活用をしていないという課題がある。つまり強化のポイント、国立公園の整備のポイントは温泉旅館でないかと思っている。一つの起爆剤としてステップアップしていく必要があるのではないか。</li> <li>・道の駅の利用は通過型の象徴である。どうやって食い止めていくか課題となっている。総合報告書の (p70) にあるとおり「観光課題」としてアクセスが不便、料理が少ない。相対する課題がある。どうやって解決するか。</li> <li>・同じく (p66) 「食べたことがあるもの」では、ひとつもないが 35% で、一番多い。</li> <li>・通過型を滞在型にするのは難しい。10:00 ~ 14:00 まで、観光ルートの拠点になるべきではないか。時間消費化型の観光開発をすべき。農業者に負担にならないような仕組みづくり、時間を埋めるために農業が必要ではないか。</li> </ul> |
| 菅原理事 (被評価者) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域には世話役が必要。一方で経済的に成り立たない。自治体や商工会などがちょっとずつ担わないとならない。他に組織はあるのだろうか。知りうるものはない。</li> <li>・やはり人が大事だと思う。ここにはいい人材がいると思う。宝物を発掘してくれる。地元の人がやらないこともやっている人たちがいる。</li> <li>・いろんな興味を持っている人がいる。志が高い人がいる。協力者、若い人たちもいる。リタイヤした人もいる。つなぎ役もいいのではないか。地域全体で考えること。</li> </ul>  |
| 加藤氏         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業協同組合のような性格質というイメージ、JA や有志、学生を活かした組織作り。</li> <li>・協力隊の卒業生はこれから 10 年いてくれるのか。農業実習性を確保し、協力隊が引き続き地域に居住してくれること。そして事業を起こすという流れ。</li> <li>・相談のほとんどがカフェ、飲食、簡易な宿泊業で起業したいというもの。これらの成功事例が少ない。500 万円 ~ 600 万円の売上では 100 数万しか上がらない。そういう人たちのスキルはそれほど高くないのが実態。居続けられるようなモノづくりがいい人材につながるのではないか。</li> </ul>   |
| 加藤氏         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・29 年度を踏まえて 30 年の計画を策定しなければならない。4 年目そろ</li> </ul>  |

|             |   |
|-------------|---|
|             | <p>そろ5年間の実績を考えなければならない。国としての見直しの時期が来る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査も個店の指導に変わってきた。出口の販路開拓に力を入れることが、すなわち伴走型である。売上向上を狙うものが国で求められている。</li> </ul>  |
| 星評価委員       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・管内商工会正副会長研修会では、「期待される観光イノベーション」というテーマで井門氏が話した内容では、まず3週間住んでみる。すると一旦出て行っても、良ければ、また戻ってくるというもの。専門学校、インターンシップが義務化している。町で受け入れ態勢を作ると良い。人材育成を町内の若手でということでは厳しい。</li> </ul>   |
| 八田氏         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌国際大学と連携ではインターンシップも可能となる。</li> <li>・他町村、上川管内の畜産（養豚）の事例では、規模拡大を3年くらいの計画で行うもので、畜産クラスターなど大きい計画である。商工会やJAなどが連携しておりモデルケースとなるだろう。</li> </ul>   |
| 加藤氏         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・5か年計画の後方が見えてきている。昨年から構図がダメになった。国が個社支援に限定し方向転換している。さらに30年度は予算上ももっと厳しくなっている。来年度の作戦立てしないとならない。例年の延長では通らない。</li> </ul>  |
| 平松評価委員      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合報告書（P25）の事業承継のアンケート結果と、商工会で支援している数とではマッチングしていないのではないかと。</li> </ul> <p>【事務局】アンケート実施時期が早く、それ以降の支援した実績が現れていないためである。</p>  |
| 小松評価委員      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力隊の人材面では、骨をうめる覚悟のある人はリーダーシップが出る傾向にある。協力隊はきっかけを作った部署が支えている。第一歩踏み出すことがやがて財産となる。</li> <li>・役場職員も削減している中、協力隊を受けてもできること、できないことがある。</li> </ul>   |
| 木村副会長（被評価者） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・きちんと議論をした中で、考えていないとならない。</li> </ul>   |
| 高橋副会長（被評価者） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元にとっぴりと浸かっているので、中の状況が見えない。やはりプレイヤーがいなくともうまくいかないと思う。足寄町にはプレイヤーになる人はいるのか。評価委員に聞きたい。私は、町外からの移住者がそういう人だと思っている。</li> </ul> <p>【八田評価委員】人材はいると思う。若者との接点を作るのがうまいと思う。高橋さんを含めて人材になると思う。</p> <p>【加藤評価委員】盛り上げがうまくいっていない。今まではうまくいったからといって安住しないこと。松山千春とラワンぶきではなく、他</p> |

|            |   |
|------------|---|
|            | <p>の物をどう伝えられるか。十勝から見ると辺境の地。札幌から見ると、十勝一円一括り。どうやってその心理的距離を縮めるか。</p>   |
| 星評価委員      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光事業のように地域全体の経済活性化を図るものは全国展開でやると良いのではないか。</li> </ul>  |
| 事務局        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街の活性化については、学生が来て何かをやるとか、力技でもいいと思う。そうすることでカード会などにも提案できる。自分たちで動けないなら外から動けるように仕向けることも必要と思う。</li> </ul>   |
| 山崎オブザーバー   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・場所やモノを共有するシェアサービス市場が伸びているという新聞記事があった。空きスペースで如何に活用できるか。学生、高校生の手を借りて。活性と売上向上が見つかるのではないか。</li> <li>・シェアサービスは国内市場 17 年度 26%増。例えば、住宅宿泊事業法の施行で国内外企業の民泊サービスへの参入が増えている。カーシェアも市場拡大が続く。空きスペースをシェアするサービスも利用者が多い。(日経新聞 20180213：矢野経済研究所調べ)</li> </ul>   |
| 加藤氏        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・売上の構成は、客数×単価は 20 年、30 年前の理屈である。今は、買い物自体が目的外になっている。欲しいもの以外は買わない。商店街の売上に結び付かなくなっている。マーチャンダイジング(商品・価格・時期・数量・場所を最適に計画し実行していくこと)し、商品力を上げないとならない。</li> </ul>  |
| 丸山会長(被評価者) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・町の総合計画の策定の際には足寄町に商店街はないと言った。個店のパワーアップに力を注いでほしいと言った。実現していないが、商店一括りではなく、個社の力をつけることが全体の活性化につながる。</li> <li>・伴走型補助事業については 5 月末の結果、国のさじ加減でコロコロ変わった。足寄町は個社を支援すると加えたことあり、ほぼ満額ついた。来年の作戦を練らなければならない。</li> <li>・販路開拓支援については、展示会等の参加企業のバリエーションに乏しい。参加企業に変化がなく中身としては薄い。説得力に乏しい。</li> <li>・アンケートでも人手不足という結果が出ている。だけど働きたい人はいる。どこに行けば、仕事があるのかわかるのか。どうしたら採用できるのか。そう思う経営者、働く人がいる。</li> <li>・当社も高卒を採用したいと思っている。しかし長年実績がないと敬遠される要素となる。</li> <li>・採用する側を支援したい。合同企業説明会をやりたい。ノウハウを知りたい。足寄町だけでも地北三町でもよい。大事なものはテーブルの出し方ひとつ、経験のない企業にどう支援できるか。</li> <li>・正副会長会議での講演会の話、鮭が自分の川へ帰ってくるように、都会</li> </ul> |

|  |  |
|--|--|
|  | <p>で疲れた時に思い出すものはやはり地域との接点である。原点回帰につながる。その点国際大学と連携することはチャンスである。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・金融あっせんでは設備資金も増えてきた。設備投資など融資相談は商工会の出番。承継のステップになる。</li><li>・HP ができたからといって販路開拓になるとは限らない。販路開拓のツールをもっと活用してはどうか。ニッポンセレクトなどにも出展すべき。</li></ul> |
|--|--|

その他、事務局は意見等を求めたが特に発言はなく、評価委員会を閉会した。時に午後 4 時 30 分であった。